

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
侶	リョ とも 人→新①		侶			侶	侶 侶 侶		侶 王勃詩序
							侶		
俺	おれ エン われ 人→新①		俺						
俱	ク グ ともに ①	俱	俱	俱	俱	俱	俱 俱 俱	俱 俱 俱	俱 王勃詩序
俱	人			俱	俱	俱	俱 俱		
				俱	俱	俱			
儉	ケン つつましい 常①		儉	儉	儉	儉	儉 儉 儉	儉 儉 儉	儉 瑠玉集
儉	人②						儉 儉		
							儉 儉		
							儉		
個	コ 教5常①							個	個 五経文字
候	コウ そうろう うかがう さぶろう 教4常①		候	候	候	候	候 候 候	候 候 候	候 王勃詩序
			候	候	候	候			
				候	候	候			
				候	候	候			

【俠】通(用)字体の「俠」が使われはじめたのは漢代。
 【俺】2011年、人名用漢字から常用漢字になった。古い使用
 例がほとんどない。漱石の『坊っちゃん』も直筆手書きでは
 仮名で「おれ(運)」と書いている。
 【俱】第一水準だが、常用漢字にも人名用漢字にもないので人

名には使えない。ただし異体字の「俱」は人名用漢字。
 【儉】中国では使用例が見えない。日本でも江戸よりも前には
 使用例が見えない。漱石も正字を用いている。現代中国の字
 体は草書の字体。
 【個】『五體字類』は「箇」と同字としている。『陸軍幼年学校

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
侶	侶	侶	侶			侶	侶		侶			侶 現代中国
			俺	俺								俺 元・趙孟頫 現代中国
俱	俱	俱	俱				俱					俱 現代中国
俱												
儉	儉	儉	儉	儉	儉		儉 儉					儉 現代中国
個			個	個	個		個 個 個 個					个 現代中国
候	候	候	候	候	候		候 候 候 候 候					候 現代中国

用字便覧』も「箇」と同じ字種としてあげている。現代中国
 では「個」も「箇」も「个」を使う。
 【候】江戸より前は「イ+候」の字体。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
倅	コウ さいわい 人①						倅 *柳公権	倅	倅 豊替指歸
借	シャク かりる かず 教4常①		借	借借			借借借借 元維嘉誌 屈元寿嘉誌 五経・序 杜家立成	借	
修	シュウ シュ おさまる おさめる 教5常①		修	修修			修修修修 元維嘉誌 孟法師碑 江戸干祿 聖武天皇垂範	修	修 最澄
倉	ソウ くら 教4常①		倉	倉倉			倉倉倉倉 元維嘉誌 孫秋生造像 李通嘉誌 瑠玉集	倉	倉 上宮聖徳法王帝説
値	チ あたひ ね 教6常①		値				値値値値 承元允造像 孟法師碑 開成石経 王勃詩序	値	値 杜家立成
倒	トウ たおす たおれる さかさま 常①		倒	倒倒			倒倒倒倒 鄭義下碑	倒	倒 王勃詩序

【倅】唐代以前の用例がみつからない。空海が豊替指歸に使っているのが不思議なくらい。*柳公権は顔真卿とともに正(統)字体を使うことがある。隣の「幸」の下部は横線が増えて「羊」になることがある。

【修】古體の1例目には「彡」がなく、2例目は「支」ではな

く「又」。いずれもニンベン(人)の右に縦線はない。偏は中国の南北朝期以来、「彡」にすることがあり、我が国でも江戸期まで名残がある。隣の上部は「支」「女」「女」の3種があり、後藤朝太郎「教育上より見たる明治の漢字」では、「又」を標準字、「女」を許容字とする。説文篆文の字形を素直に楷書

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
	倅	倅	倅				倅					倅 幸 草書辨体 現代中国
												倅 倅 草書體部韻貫 北宋・米芾
	借	借	借借借借				借借借借借借					借 借 元・鮮于敏 現代中国
	借	借										借 元・趙孟頫
	修	修	修修修修	修	修		修修修修修修					修 現代中国
	修	修					修					修 明治の漢字許容字
	倉	倉	倉倉倉倉	倉	倉		倉倉倉倉倉倉					倉 現代中国
	値	値	値値値値	値	値		値値値値値値					値 現代中国
	倒	倒	倒倒倒倒	倒	倒		倒倒倒倒倒倒					倒 現代中国

や明朝体にすれば「支」になる。現代中国は「又」の字体を書く。隣の下部は3点と2点があり、3点では右上から左下に「彡」のように書く、3点目を左上から右下に書き「久」のように書く、3点とも左から右に「三」のように書く、の3種がある。漢から初唐まで「修」と「脩」は通用していたという。

【値】手書きでは隣の「直」に鉤形を書くことはない。江戸では「値」のかわりに「價(価)」または「直」を使う。

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
俳	ハイ		俳				俳 能	俳 能	俳 能
倍	バイ そむく ます		倍	倍 倍			倍 倍	倍 倍	倍 倍
倭	ヒョウ たわら		倭	倭 倭					
倣	ホウ ならう								
倣	ホウ						倣 倣		
倫	リン たくい みち		倫	倫	倫	倫	倫 倫 倫	倫 倫	倫 倫
倭	ワ やまと		倭				倭 倭	倭 倭	倭 倭
偽	ギ いつわる にせ		偽	偽 偽	偽	偽	偽 偽	偽 偽	偽 偽
偽			偽	偽	偽	偽	偽		
偶	グウ たまたま とものがら		偶	偶 偶	偶	偶	偶 偶	偶 偶	偶 偶
倦	ケン うむ		倦	倦 倦	倦	倦	倦 倦	倦 倦	倦 倦

【俳】楷書(唐代の正字を含む)では傍の左側の縦線をはらわずに止める。弘道軒や現代中国の明朝体(宋体)も同様。
 【倍】漢代は傍の横線を長くする場所が一定していない。康熙字典では傍の1画目は横線。現代中国では点。
 【倭】江戸期よりも古い使用例が見つからない。

【倣】北宋期よりも古い使用例が見つからない。現代中国では「仿」を使う。日本では江戸期よりも古い使用例が見つからない。漱石は草書も使っている。
 【倫】傍の縦線が上に出る、出ないの2種の字体がある。説文篆文に倣えば上に出るはずだが、開成石経の字体は出ない。

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
	俳	俳	俳	俳		俳	俳	俳	俳	俳	俳
	倍	倍	倍	倍		倍	倍	倍	倍	倍	倍
	倭	倭	倭	倭		倭	倭	倭	倭	倭	倭
	倣	倣	倣	倣		倣	倣	倣	倣	倣	倣
	倫	倫	倫	倫		倫	倫	倫	倫	倫	倫
	倭	倭	倭	倭		倭	倭	倭	倭	倭	倭
	偽	偽	偽	偽	偽	偽	偽	偽	偽	偽	偽
	偶	偶	偶	偶	偶	偶	偶	偶	偶	偶	偶
	倦	倦	倦	倦	倦	倦	倦	倦	倦	倦	倦

【偽】漢代の隸書ですでに簡略化されている。弘道軒が正字なのは意外。漢字整理案で傍の4点が線に略されている。現代中国は草書の字体。
 【偶】最終の2画に注目。通(用)字体も正(統)字体も楷書では傍を8画で書いているが、康熙字典では9画。説文篆文の字

体に倣えば8画になるはずだが、1画増やすのが明朝体の様式なのだろう。ところが楷書の弘道軒や文部省活字も康熙字典に倣って9画にしている。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
健	ケン すこやか たけし 教4常①		健	健			健 健	健 健	王勃詩序
偲	シ しのび しのぶ 人①		偲				偲	偲	五経文字
側	ソク かたわら がわ 教4常①	𠂔	側	側	側	側	側 側 側 側	側 側	杜家立成
停	テイ とどめる やめる 教4常①		停		停	停	停 停	停 停	王勃詩序
偵	テイ うかがう 常①		偵				偵	偵	
偏	ヘン かたよる ひとえに 常①		偏	偏	偏	偏	偏 偏 偏	偏 偏	法華義疏
偉	イ えらい 常①		偉	偉	偉	偉	偉 偉	偉 偉	王勃詩序
僅	キン わずか わずかに 人→新①		僅			僅	僅 僅	僅 僅	杜家立成
傘	サン かさ 常①								

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
健	健	健	健				健	健	健	健	健	健
偲	偲	偲										偲
側	側	側	側	側	側		側	側	側	側	側	側
停	停	停	停	停	停	停	停	停	停	停	停	停
		偵	偵	偵			偵	偵				偵
偏	偏	偏	偏				偏	偏		偏		偏
		偉	偉	偉			偉	偉	偉	偉		偉
僅	僅	僅	僅	僅	僅	僅	僅	僅			僅	僅
	傘	傘		傘	傘	傘	傘	傘		傘		傘

【健】江戸時代は「𠂔」を「𠂔」の形で書くことが多い。 𠂔、漱石が書いた字体と同じ。
 【偉】現代中国は草書の字体。
 【傘】『謹身往来』の字体は康熙字典よりも1画多い。漱石が書いている字体は『謹身往来』の字体の省略体か。「漢字整理案」で字典體として掲載されている字体が、康熙字典とは異

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。